

鳥坂寺跡整備検討委員会 会議録

第2回会議（2012年11月13日）

時間...14:00～16:00

場所...歴史資料館3階 研修室

1. 開議

2. 生涯学習部長あいさつ

3. 審議

（ ...委員からの意見・質疑、 ...事務局の回答）

イ 基本計画の目的と位置づけについて

ロ 現状と課題について（土地利用状況、公有化状況、など）

ハ 保存管理計画について（基本方針、公有化計画、現状変更の取扱い基準、維持管理方針、など）

【事務局から説明】

取扱基準について、中心伽藍地区である「A1」地区の「農地など」の項目に、「農地利用に係る耕作及びその作業や育成のための仮設的施設設置、整備活用に係る事業は遺構の保存を条件に認める。」とあるが、農地の存続を認めるということか。現在、耕作している範囲を越えないものは認める。ただ現段階の取扱いであり、公有化した後には、耕作などは認めない。公有化までの暫定的なものとして記載している。

その他の「認める」という表現も、暫定的なものと考えてよいか。

まだ文言を検討段階なため、不十分なところもあるが、そのように考えていただきたい。

「仮設的施設」とは、どのような規模を想定しているのか。

農具小屋や、テントなど永久的でない小規模なものを考えている。

講堂跡周辺に植えられているぶどうの根は、遺構に影響するのか。

ぶどうの根は、どちらかといえば横方向に根を張っているが、遺構に影響を及ぼす場合もある。現状でのぶどう畑は認めざるを得ないが、新たに植栽用の穴を掘り違う品種を植えるといったことや、排水などのための溝を掘削することは認めない方針である。

難しい問題だと思うが、史跡の景観という観点から、周辺にある住宅の改築や新築などの取扱いについても、管理計画の中に盛り込むことはできないか。
都市計画などの絡みもあり、関係部局との連携を密にとる必要があると考えている。

A 1、A 2 地区の公有化の見通しはどうなっているのか。

国の補助を受けての購入を考えているが、今年度中に土地を鑑定し、来年度文化庁に申請を予定している。最も早く進んだ場合、平成 26 年度に予算化される可能性がある。ただ、一括での買収は難しいため、分割しての買収となり、それには最低でも 3 年程度は必要と考えている。買収方法については、市が直接行うのかなど、現在、検討中である。

鳥坂寺跡の整備事業について、民有地の地権者の方々の反応はどのようなものか。
畑を続けていきたいという方もおられるが、概ねご理解をいただいている。

拡張地区である D 地区の遺構の状況はどのようなものか。

南側の D 地区については、A 2 地区と同様、かなり削平を受けていると考えている。
北側の D 地区については、若干平坦地もあり、遺構のある可能性がある。

八 整備基本計画について

【事務局から説明】

資料で示してあるように、鳥坂寺跡だけでなく、サンヒル柏原や、そこからの古市古墳群の景観などを含めて、周辺とのリンクが重要である。

「鳥坂寺跡の役割」の中に、「現況の環境をありのままに見せる」とあり、「鉄道が遺跡の中央を縦貫している有様を見せる。」とあるが、整備計画の中で、それほど積極的に強調する必要はないのではないかと。むしろ、立地環境に含める程度の方が無難ではないか。

近年は、遺跡整備に関して、あえて近世の溜め池などを残し、土地の履歴などを示す流れがあると感じている。現況をどう工夫して見せるのかを検討する必要がある。整備の予算的な問題として、溜め池などそのまま残さざるを得ない事例もある。鳥坂寺の場合、線路敷設が、文化財保護法施行以前のため、遺構が破壊されてしまったが、近鉄大阪線の歴史的な評価を正当に行い、鳥坂寺跡周辺が歴史上、交通の要衝であったという意義づけの中で、それを解説するのは必要である。

整備計画ゾーニング図で、動線が示されているが、お年寄りや車椅子での移動を配慮する必要がある。

基壇の上などは難しいかもしれないが、メインの広場などについては、障害者の方でもアクセスできるような園路は設置可能であると考えている。

金堂の階段や基壇の復元について、型取りや 3D 計測などの方法があるが、レプリカを製作する場合、耐久性や維持管理方法について調査する必要がある。

復元方法については、遺構の脆弱性や予算などに制限される。現在の流れでは、樹脂等ではなく、石材など実際の材質を使用して復元する例が多くなっている。

レプリカについては、現状の姿で復元するのか、本来のあるべき姿で復元するのがよいのか議論する必要がある。

どのような基壇を、どのような技術で復元するのかという問題と、現地で展示するのか、サンヒル柏原などで展示するのか議論しなければならない。ただ現地で展示を行う場合は、遺構の保存が最優先であることから、方法が限られてくるのではないかと。鳥坂寺跡の特色ということで、金堂基壇や階段の復元には重点を置くべきである。

具体的な展示方法などは、実施設計の段階で議論することになると考えるので、現在進めている基本設計の段階では、複数の案をご提案いただきたい。

4 . 次回の開催予定

事務局：次回は平成 25 年 1 月 22 日（火曜日）、14 時から 16 時、場所は本日と同様、歴史資料館 3 階研修室で行う。

5 . 閉議